

---

# TAFISA ミッション 2030

スポーツ・フォー・オールを通じて  
より良い世界を築く

---

2017年11月16日、韓国ソウルで開催されたTAFISA総会にて採択



# TAFISA会長メッセージ

TAFISAの「ミッション2030: スポーツ・フォー・オールを通じてより良い世界を築く」は、世界中で起きている身体不活動という問題と闘うためのグローバル戦略の指針である。本指針は、我々がとるべき行動に重点をおいて簡潔に記述している。世界が直面している重要な課題を12の主要テーマに基づき紹介し、2030年までにより良い世界を築くためにどのようにしてスポーツ・フォー・オールの貢献を最大化すべきかの原則を示している。さらに、この分野における主な取り組みやステークホルダーに焦点を当て、12の主要テーマごとに変革を起こすよう呼びかけている。

TAFISAは、全メンバーおよびステークホルダーがこの原則を取り入れ、グローバルなスポーツ・フォー・オール推進運動（Sport for All Movement）の一員としてこのミッションを共有・支援・行動することで、2030年までに世界をより良い場所とすることを求めている。

TAFISAのミッション2030は、2017年11月16日に韓国ソウルで開催されたTAFISA総会にて採択された。



Prof. Dr. Ju-Ho Chang  
TAFISA会長

# はじめに

今日、我々と我々が住む世界は、気候変動、市民による暴動、非感染性疾患、孤立、圧制、貧困、テロ、核戦争の脅威など、かつて見られなかった様々な課題や脅威に直面している。これらは、特定の人口層、地域、信条、政治的立場に固有の問題ではない。これらはグローバルな問題であり、我々の家族も子供も友人も地域の人々も全員が直面している問題である。即座に効果的な変化を起こさなければ、未来の世代の人たちは我々が楽しんだようにこの世界を楽しむことはできないだろう。彼らが生きる世界は、我々が生きてきた世界よりも生きづらいものになる。これは単に公平ではないというだけでなく受け入れがたいことだが、回避することもできる。

スポーツ、身体活動、エリートスポーツや草の根スポーツ、遊び、運動、伝統的なスポーツや遊び、レジャーやレクリエーション活動など、呼び方は様々でも、スポーツ・フォー・オールには変化を起こし、世界をより良い場所にし、世界の問題解決に貢献する力があり、これはほかにはない力である。すべての人は「プレイ」（楽しむことを目的とした身体活動の総称）をするために生まれ、それがどのような形式によるものかにかかわらず誰もがその意義を理解することができる。それは、人種、宗教、ジェンダー、性的指向、年齢、社会経済的地位、地理的な場所、身体的・精神的能力の違いを超えて、人と人との間に橋をかけて、人々をつなげる。また、身体的・精神的・社会的な健康を高め、環境面や経済面でのコストを削減し、文化の多様性を守り、平和を構築する。プレイすることは基本的な人権であるとともに、世界が直面している最大の課題に対処するための強力なツールにもなり得る。

我々のミッションは、スポーツ・フォー・オールを通じて、次世代の人々も楽しめるような、より良い世界を2030年までにつくることである。世の中には「スポーツ・フォー・オールと身体活動（Sport for All and physical activity :SAPA）」や持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals :SDGs）に関する優れた研究や白書、アジェンダ、ガイドラインが多数ある。TAFISAはこうしたものに目を通すことを推奨する。グローバルなスポーツ・フォー・オール推進運動のリーダーであるTAFISAは、自治体レベル、国レベル、国際的なレベルでこの運動に関わっているメンバー、ステークホルダー、変革を起こす者たちのことを熟知しており、彼らに対してTAFISAとともに行動するよう呼びかけている。

## ともに、より強く

このミッションは、これから2030年までの12年間で、より良い世界をつくるために、スポーツ・フォー・オールと身体活動（SAPA）の推進における行動と発展の基盤を提供している。12の重要な国際課題の解決に向けてスポーツ・フォー・オールと身体活動（SAPA）ができる貢献や、変化を効果的に起こすための最善な協働のあり方について簡潔に説明している。多様な国際機関や他業界からの支援を受けて、未来に向けた平和な人類の発展のために、我々はスポーツ・フォー・オールと草の根スポーツのもつポテンシャルを最大限に広げていく。

TAFISAは、すべてのメンバー、ステークホルダー、パートナー、友人がスポーツ・フォー・オールと身体活動（SAPA）や草の根スポーツのために立ち上がり、このミッションを行動のフレームワークや指針として採用してくれることを切に願っている。今こそ、我々全員が責任をもって行動し、スポーツ・フォー・オールを通じて次世代のためにより良い世界をつくることを約束するときだ。そのために以下を行う。

- **共有（Sharing）**：一つの学校・コミュニティ・国で成功したことをほかの場所でも活用できるようにする。
- **支援（Supporting）**：「我々にとってどんな利益があるのか？」と問うのではなく、「他者のために何ができるか？」を考え、先進的な地域・国と、そうではない地域・国で知見のやりとりを行う。
- **行動（Acting）**：話し合いは終わりにして、効率的かつ効果的な模範を示して先頭に立ち、誠実に行動する。

---

# ミッション

---

今日、世界は重大な課題に直面している。我々のミッションは、スポーツ・フォー・オールと身体活動(SAPA)のもつグローバルなポテンシャルを最大限に発揮し、以下の課題の解決に向けた貢献を通じて、2030年までの12年間でより良い世界をつくることである。

- テロ、市民による暴動、家庭内暴力
- 男女における機会の不均等
- 人生のすべてのステージで教育を受ける機会の不足
- 異なる人々に対する理解、許容、尊重の欠如
- プレイをする機会がなくなることによるフィジカルリテラシー\*の欠如、孤立、病気への影響
- 急激な都市化
- 人類による環境への悪影響
- 地域や伝統に関する知識・遺産の消失
- 汚職や不正行為
- コミュニティの崩壊
- 疾病とそれに伴う医療費の増加
- 資源や富の不公平な配分

\*スポーツ・身体活動を通して、生涯にわたって身につける身体能力や知識（健康効果などに関する）、行動（生活習慣）等の総称

# テーマ

---

以下のテーマに対するスポーツ・フォー・オールへの貢献を最大限に高める

－	平和、開発、パートナーシップ	ページ 05
－	ジェンダーの平等	ページ 06
－	教育	ページ 07
－	ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）	ページ 08
－	プレイとフィジカルリテラシー	ページ 09
－	アクティブシティ	ページ 10
－	環境	ページ 12
－	文化遺産と多様性	ページ 13
－	ガバナンス、リーダーシップ、インテグリティ	ページ 14
－	コミュニティとボランティア活動	ページ 15
－	健康とウェルビーイング*	ページ 16
－	経済的影響とリソース	ページ 17

---

－	変化を起こすために	ページ 18
－	証言	ページ 19

\*肉体的・精神的・社会的にすべてが満たされた状態

# 1. 平和、開発、パートナーシップ

## ビジョンステートメント

2030年、子供たちは、安全な環境、他者に寛容な文化、そして平和を追求する世界に生まれてきている。

### － 現状

2015年、世界中で40の武力紛争が認識されており、167,000人が亡くなった<sup>1</sup>。国連は、2017年の難民の数を世界全体で1億人以上と報告している。移住による人口移動は、地域の人口動態を変えるだけでなく、価値観、規範、文化、政治的・社会的な構造も変え、新たな緊張や対立を生む可能性がある。そのため、世界各地に平和で結束力のある多文化社会を構築することが、人類の発展における課題の一つにあげられている<sup>2</sup>。このほかにも、暴力、犯罪、貧困、ホームレス、人身売買、強制結婚、栄養失調、疾病などの課題もある。

### － スポーツ・フォー・オールにできること

「スポーツには世界を変える力がある。人々を鼓舞する力がある。ほかにはない方法で人々を団結させる力がある。スポーツは若者に理解できる言葉で語りかける。スポーツは、かつて絶望しかなかった場所に希望をもたせることができる。人種の壁を打ち破ることにおいて、スポーツは政府よりも力強い。」

南アフリカの元大統領であるネルソン・マンデラ氏の言葉がよく引用されるのは、彼の言葉が過去も現在も、そして未来においても真実である証拠だ。その中核にあるのは、スポーツが平和的な人類の発展を育み象徴するということである。組織レベルでは、スポーツ・フォー・オールの取り組みはインクルーシブでパートナー同士の連携によって推進されるため、地理上の場所の違いや選択した身体活動の内容、ターゲット層、競技レベルの違いにかかわらず、知識や経験、リソースを容易に共有できる。個人レベルでは、身体活動やスポーツ・フォー・オールに参加することで、コミュニティの結束やソーシャルインクルージョン（社会的包摂）に深くかかわることができ、帰属意識や、他者への尊重・友情・寛容・規律といった価値観を育むことができる。また余った時間・心・エネルギーをスポーツや身体活動で埋めることで、それらを暴力、犯罪、差別に向ける余裕もなくなる。スポーツは、人々とコミュニティの間に平和的な架け橋を築く、効果的なツールであることが証明されている。

### － 我々のミッション2030

変化を起こすために、グローバルなスポーツ・フォー・オールと身体活動の推進運動（Sport for All and Physical Activity Movement :SAPA Movement）は以下のことを行う必要がある。

- （潜在的なものを含む）紛争地域や恵まれない地域にターゲットを絞り、スポーツ・フォー・オールが介入することで、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献できるよう全力を尽くす。
- 人類の発展とコミュニティ構築のためのツールとしてスポーツ・フォー・オールを活用しながら、すべての人々に利益をもたらすよう協力して共有、支援、行動する。
- どんな知識やリソースを開発途上の人々や国に提供できるかを自問する。

<sup>1</sup> 出典：Armed Conflict Database, International Institute for Strategic Studies.

<sup>2</sup> 出典：Human Development Report 2016: Human Development for Everyone, United Nations.

## 2. ジェンダーの平等

### ビジョンステートメント

2030年、女性と男性、少女と少年は、平等な権利や機会を得て、等しく尊重されている。

#### － 現状

あらゆる分野で女性と少女はジェンダーの不平等と闘っている。2015年時点、女性の国家元首は21人だけで、性差別的な法律が1つ以上ある国は150か国にのぼる。ほとんどの国では、同じ仕事でも女性の収入は男性の60%から75%である<sup>3</sup>。仕事においても、社会においても、目に見えない障壁によって管理職やリーダーとしての地位に就くことを阻まれたと報告する女性が数多くいる。こうしたジェンダーギャップはスポーツ界でも、特にエリートスポーツの分野でよく見られる。米国では、スポーツをする人の約40%は女性であるにもかかわらず、メディア全体において女性スポーツが記事等で取り上げられる割合は6%から8%しかない。

#### － スポーツ・フォー・オールにできること

幸運なことに、スポーツ・フォー・オールでは、状況が上記と異なる可能性があり、実際に異なる場合が多々ある。女性、特に少女は、ユニフォーム・費やすべき時間・費用に関するルールや制限が柔軟であること、勝つことよりも楽しさや健康に焦点を置いていること、雇用機会が比較的多いこと、音楽、ダンス、文化を取り入れ、家族と一緒に実施できることなど、様々な理由で草の根スポーツやスポーツ・フォー・オールへの参加率が高い。スポーツ・フォー・オールでは、男性も女性も、少年も少女も、同じ場所でプレイすることが多く、互いを理解し尊重することができる。非常に重要なのは、スポーツ・フォー・オールは少女と女性がいつでも歓迎され、安全に身体を動かせる場所が提供されることである。そこでは、完璧であることよりも参加することが称賛され、競争よりもリーダーシップ、フェアプレー、多様性、インクルージョンに価値が置かれ、自信をつけ自制心が向上しコミュニティとのつながりを強くすることができる。その結果、少女や女性がキャプテン、コーチ、管理者、役員へと昇進することもあり、最終的に個人・仕事・公共の場といった社会のあらゆる分野での女性の地位向上にもつながる可能性がある。

#### － 我々のミッション2030

変化を起こすために、グローバルなスポーツ・フォー・オールと身体活動の推進運動（SAPA Movement）は以下のことを行う必要がある。

- リーダーシップ、マネジメント、運営管理、コーチング、競技の審判において、ジェンダー間のバランスを取ることを目的としてジェンダー平等方針をあらゆるスポーツの統括団体が導入するようにする。
- 女性と男性のスポーツを平等に推進・支援する。
- 「女の子らしく」という言葉に含まれる言外の否定的な意味合いを取り除き、女子のスポーツ参加を促進する。

<sup>3</sup> 出典：Global Gender Gap Index 2017, World Economic Forum



## 3. 教育

### ビジョンステートメント

2030年、すべての子供・若者・成人は、スポーツ・フォー・オールと身体活動（SAPA）に参加することで、ライフスキルを高め、正規学校教育を最大限活用する機会を得ている。

#### － 現状

正規であるかどうかを問わず、教育の価値はどれだけ誇張してもしすぎることはなく、また教育とは必ずしも正規の学校教育に限定されるものではない。人々は、ゆりかごから墓場まで、日々何かを学んでいるが、何を学ぶかが人生の質や他者との出会いに大きく影響する。正規の学校教育、メンターからの指導、職業訓練、保護者による教育、コーチング、または実際に活動に参加・観察することによって得られる質の高い教育は、貧困、偏見、低い自尊心、孤立、不平等、犯罪、暴力を防止することにつながる。残念ながら、質の高い教育は誰もが受けられるわけではなく、正規学校教育を受ける機会の不足、社会的孤立、指導者不足など、人生の様々な場面で質の高い教育を受けることへの障害が数多く存在する。特に、ほかの教科の探求と比較してその影響が過小評価・軽視されることから、リソースの配分も少ない体育ではこうした傾向が顕著である。

#### － スポーツ・フォー・オールにできること

スポーツ・フォー・オールと身体活動（SAPA）への参加は、すべての人々にとって、正規・非正規双方の教育の質を高める素晴らしいツールとなる。その理由は以下の通りである。

- 正規学校教育の出席率や成績が向上し、その後のさらなる正規学校教育を受ける機会と職業上の選択肢の増加につながる<sup>4</sup>。
- 人間発達においてアカデミックリテラシーと同じくらい重要なフィジカルリテラシーを習得できる。
- 人生のあらゆる面に応用できるフェアプレー、尊敬、リーダーシップ、インクルージョン、チームワークといった価値観を教え込むことができる。
- ボランティア活動、与えられた任務の完遂、リーダーシップ、チームマネジメントなどの経験を通じて、ほかの分野、特に職業上の成功に必要なライフスキルを身につけることができる。
- 異なる世代やバックグラウンドをもつ人々の間で、知識や経験の交換、文化的な交流を促す。

#### － 我々のミッション2030

変化を起こすために、グローバルなスポーツ・フォー・オールと身体活動の推進運動（SAPA Movement）は以下のことを行う必要がある。

- スポーツ・フォー・オールと身体活動（SAPA）が一生涯にわたって提供されることの重要性和効果を認識し、人々がどこで働き、学び、生活し、旅行し、プレイしようとも、すべての年齢の人がスポーツ・フォー・オールと身体活動（SAPA）に参加できるようにする。
- スポーツ・フォー・オールと身体活動（SAPA）の重要性を啓発し、正規の学校教育に質の高い体育の授業と身体を動かす機会が盛り込まれるよう働きかける。

<sup>4</sup> 出典：Designed To Move - A Physical Activity Action Agenda ([www.designedtomove.org](http://www.designedtomove.org))

## 4. ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）

### ビジョンステートメント

2030年、あらゆる移民・難民・少数民族が受け入れられ、個々の能力の違い、ジェンダーや性的指向が理解・歓迎され、その価値が認められ、社会全体に一体感が醸成されている。

#### － 現状

国連の報告によると、2017年には1億人以上の人々が難民として移動を続けており、何億という人々が人種、宗教、年齢、ジェンダー、性的指向、能力、社会経済的バックグラウンドを理由に差別され、社会から排除されている。「他者への恐怖」「寛容・関心・理解の欠如」「孤立（自ら課したものや他者の強制によるもの）」がコミュニティの崩壊を招いている。

#### － スポーツ・フォー・オールにできること

スポーツ活動に関する研究者・実践者・参加者は、スポーツ（特に草の根スポーツやスポーツ・フォー・オール）とソーシャルインクルージョン（社会的包摂）向上の間には強い関係性があることを認識しており、公にもこれを認めている。

スポーツ・フォー・オールは、経済的・社会的な団結や統合された社会の実現に重要な貢献を果たす。また移民や海外出身者を受け入れ、異文化間の対話を促す役割を担うことができる。少数派の人たちの特定のニーズや状況に対応する必要がある場合にも、スポーツ・フォー・オールは様々な形で平等をもたらし、固定概念や差別に立ち向かうツールとなる。スポーツ・フォー・オールは人々（特に若者）にポジティブで生産的な環境を体験させる機会を提供し、不満や敵意といった感情を退け、自立性を養い、希望を抱かせることができる、そしてそれによって、将来の対立を防ぐことにもつなげられる。

#### － 我々のミッション2030

変化を起こすために、グローバルなスポーツ・フォー・オールと身体活動の推進運動（SAPA Movement）は以下のことを行う必要がある。

- ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）のためにスポーツがもつ力を認識し、少数派の人たちが安全かつ調和のとれた形で社会の一員となるのを助けるツールとして、それを活用する。
- 人種、宗教、年齢、ジェンダー、性的指向、能力、社会経済的バックグラウンドの違いにかかわらず、すべての人々に参加を促し、参加できる環境を整える。
- スポーツを用いて、国境を超えて架け橋をかける機会を見つけるために政府と協働する。

# 5. プレイとフィジカルリテラシー

## ビジョンステートメント

2030年、世界中のあらゆる世代の人々がプレイ（楽しむことを目的とした身体活動の総称）することの価値を認めている。

### － 現状

子供も大人も、誰もがプレイするために生まれたはずだが、我々は勉強や仕事や社会に関する不安の圧力のなかで、いつしかそのことを忘れてしまっている。ほんの数世代前まで、人々は日常的に歩いたり走ったり、物を持ち上げたり運んだり、押したり引いたりしていた。身体を使って穴を掘り、草を刈り取り、収穫し、踊ったり、飛び跳ねたり、木や山を登っていたのである。しかし、状況は変わり、我々も変わってしまった。これは世界中で起きている問題であり、あらゆる地域と発展のレベルに影響を与えている。学校教育における体育は教師からも保護者からも過小評価され、すべての年齢において「プレイすること」は愚かなことであり、時間の無駄であるとみられることが少なくない。このことがフィジカルリテラシーの低下につながり、家庭、職場、レクリエーションやレジャーの時間、旅行中、他者との日々の関わりや周囲の世界との交流機会など、人生のあらゆる場面において、人々が自信をもって上手く身体を動かすことができない状況をつくり出している。

### － スポーツ・フォー・オールにできること

スポーツ・フォー・オールと身体を動かすプレイに参加することは、知的、金銭的、社会的、個人的、感情的、身体的な資本といった「人的資本（human capital）」を成長させる。人々の認知、身体、社会、感情面でのウェルビーイングにも貢献するため、プレイすることはすべての子供・若者だけでなく、大人にとっても必要不可欠である。また、プレイは、保護者やそのほかの広範なコミュニティにとって、自分の子供たちや仲間たちと本気で関わるための理想的な機会も提供する<sup>5</sup>。自由な遊び、大人の指導によって学びや成長に導く遊び、伝統的なスポーツや遊び、ニュースポーツ、屋内外で行う遊び、競技スポーツやエリートスポーツなど、あらゆる形のプレイを通じて、我々はフィジカルリテラシーを身につけ、創造性や自立性を学び、身体的・精神的な強さを育て、文化や伝統に共感し、人工的な環境や自然環境を探索することができる。プレイすることは、我々を人間たらしめ、社会という仕組みを形成するうえで非常に重要なコネクターとなる。

### － 我々のミッション2030

変化を起こすために、グローバルなスポーツ・フォー・オールと身体活動の推進運動（SAPA Movement）は以下のことを行う必要がある。

- すべての人のために、プレイやスポーツ・フォー・オールと身体活動（SAPA）への参加を奨励し、そのための前向きな機会を提供する。
- 職場、コミュニティ、家庭、公共の場で実践して手本を示す

<sup>5</sup> 出典：The Importance of Play in Promoting Healthy Child Development and Maintaining Strong Parent-Child Bonds, Kenneth R. Ginsburg (<http://pediatrics.aappublications.org/content/119/1/182>)

## 6. アクティブシティ

### ビジョンステートメント

2030年、世界中の都市はアクティブシティになっている。

#### － 現状

2030年には、世界の人口の60%が都市に住むようになる。もしそれらの都市が「アクティブではないまち（Inactive Cities）」となれば、ゲームオーバーとなる。国連経済社会局人口部（UN DESA's Population Division）のダイレクターであるJohn Wilmoth氏は「都市部をマネジメントすることが、21世紀におけるもっとも重要な開発課題の一つになる」と言う<sup>6</sup>。しかし残念ながら、社会を変える力をもつ人々の多くは市民に必要な身体活動のレベルについて十分な理解をもちえない。例えば、欧州では84%の政治家が自国における肥満人口の統計を知らないという<sup>7</sup>。2030年には、人口1,000万人以上のメガシティの数が世界で41にのぼると予測されている。増大を続ける都市化は、グローバルな平等性、健康、教育、豊かさ、持続可能性といった分野に数多くの課題を抱えている。都市人口の増加見込みは、今後の人類の持続可能性に都市環境が非常に重要な役割を果たすことを示している。特に、自治体行政は幅広いサービスを提供する立場であることから都市環境整備の主要なアクターといえる。そこには、スポーツやレクリエーション、イベント、公園や空き地、公衆衛生、教育、都市計画、コミュニティの安全性、地域にかかわる部門がすべて含まれることになる。

#### － スポーツ・フォー・オールにできること

アクティブシティとは、人々が暮らし、働き、学び、プレイする、あらゆる場所で身体活動が優先される都市である。アクティブシティでは、以下のような非常に大きな効果を得ることができる<sup>8</sup>。

- 最終的な損益：都市の徒歩・自転車環境を向上させることによって、都市内の商取引が最大40%まで増加し、家賃を最大20%も値上げすることができ、医療や交通渋滞にかかるコストを削減し、投資対効果を3倍にすることができる（中には最大で9倍になるケースもある）ことが複数の研究結果によって示されている。
- 安全性：身体活動に資するようなエリア（自動車の進入制限をしている道路や庭園、緑地）では犯罪が減少することが証明され、歩行者や自転車に乗っている人に優しい都市設計は死亡事故を減らすとされている。
- 環境：徒歩や自転車による移動は、燃料消費や大気汚染を大幅に削減できる。また公共交通機関は、乗客1人の1マイル輸送当たりの一酸化炭素の排出量を、自家用車での移動と比較して最大95%も減らすことができる。また、屋外の開放された環境で体を動かしていると、自然とその環境を維持しようとするようになる。
- 身体的・精神的・社会的な健康：人は、自分で体を動かして移動する手段があると、自分の住むまちがもっと好きになり、より幸せを感じるようになる。公園や遊び場は、コミュニティの絆を深め、スポーツや身体活動への参加は、社会統合と異文化への理解を促す。

#### － 我々のミッション2030

変化を起こすために、グローバルなスポーツ・フォー・オールと身体活動の推進運動（SAPA Movement）は以下のことを行う必要がある。

- 自治体の首長や各部門と連携して、既存の資源を「アクティブな資源」として活用することを優先する。例えば、既存の空き地や公園でのプログラム実施、校庭や運動場を含む学校施設の放課後活用、市民が道路で身体活動やプレイすることができるように自動車の進入を制限する区域・時間帯の設定、伝統スポーツや遊びの実践推進、自分の体を動かして移動するアクティブな移動手段の推奨などがあげられる。
- 大規模スポーツイベント終了以降も、一般の人々が身体活動を楽しめる持続可能なまちづくりをレガシーとして残す。

---

<sup>6</sup> 出典：John Wilmoth, Director of UN DESA's Population Division

<sup>7</sup> 出典：The European Association for the Study of Obesity (EASO), 2014

<sup>8</sup> 出典：Designed To Move - A Physical Activity Action Agenda ([www.designedtomove.org](http://www.designedtomove.org))

# 7. 環境

## ビジョンステートメント

2030年、人類は環境に対してより大きな意識と懸念をもち、環境を保全するための行動を起こしている。

### － 現状

継続的な人口増加により、大気・水質・土壌の汚染から、気候変動、森林伐採、海洋や雨の酸性化、オゾン層破壊、地球温暖化まで、環境に与える悪影響も大きくなっている。人口が増えるほど、我々が消費する空間や資源も増え、効果的な処分方法がないにも関わらず廃棄物が増えていく。皮肉なことに、健康を増進するはずであったスポーツさえも、環境への責任を負わない施設の開発、参加者や観客が出すゴミ・廃棄物、必要以上のエネルギー消費によって健康を維持するための環境を悪化させる場合がある<sup>9</sup>。

### － スポーツ・フォー・オールにできること

一方で、この問題を直視しながら、各自が自覚と責任をもつてスポーツ・フォー・オールに参加すれば、環境保護を強化して、持続可能性を高めることができる。通常、スポーツ・フォー・オールに必要な施設や器具は、新たな建設資材、エネルギー、スペースをそれほど使わずに、既存のものを工夫して使うことが奨励されている。スポーツ・フォー・オールは、海辺、川、山、森林、野原などで、自然を壊すことなく、自然にある資源を使って行うことができる。さらに、環境に敬意を払いながら自然の中を歩き、遊び、動きまわるとは、環境の持続可能性や環境保護について子供達に教育するための手段にもなる。アクティブな人々ほど自分の周りにある自然環境のことをよく知っており、自然を守る必要性についてもよく認識している場合が多い。

### － 我々のミッション2030

変化を起こすために、グローバルなスポーツ・フォー・オールと身体活動の推進運動（SAPA Movement）は以下のことを行う必要がある。

- 政策、イベント、インフラ面において、環境に優しいスポーツ・フォー・オールを実現するために、構造的な変化を起こす。
- 自然環境と共存できるスポーツを開発する。あるいは、既存の施設や既に構築された環境の新たな活用方法を探る。
- 手本で示す - 環境に対して個々人が与える影響について認識し、周囲の人たちを啓発する。

<sup>9</sup> 出典：Charles W. Schmidt, Environmental Health Perspectives (<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC1459948/>)

## 8. 文化遺産と多様性

### ビジョンステートメント

2030年、伝統文化や現代文化を含むすべての文化遺産は、自治体・国・国際的なレベルで積極的に保護・推進・賞賛されている。

#### － 現状

グローバリゼーションは、世界各地のリソースを利用しやすくし、各国で高い評価を受けている政策やスポーツ・エンターテインメントの素晴らしさを共有できるようにし、世界中にいる家族・友人・同僚などと容易にコミュニケーションが取れるようにするなど、今日の世界に数多くの良い効果をもたらした。一方、グローバリゼーションによって個々の文化の違いや価値が脅かされ、祖先が残してくれた多様な遺産のことは忘れられ、ないがしろにされている。「今、対策をとらなければ、現在話されている6,000を超える言語の半数は2050年までに、あるいは遅くとも今世紀末までに消えてしまう」というのが大半の言語学者の一致した見解である<sup>10</sup>。何世紀にもわたって続いてきた伝統が、時代とともに消滅するか、(国外への)移住などの社会的圧力を受けて、より広く受け入れられている標準に「適合」し、淘汰されようとしている。世界全体で言行・思想などの統一性を維持するという考え方が、独自のものであるという考え方に勝ってしまっているのである。スポーツの世界では、興味深いパラドックスがあらわれている。世界各地の人々が一緒に競技に参加し、対等な立場で競い合うことができるよう、ルールや規定の標準化が進む一方、より多くの人々を惹きつける可能性がある数多くのスポーツや競技が消失してしまっているのだ。

#### － スポーツ・フォー・オールにできること

スポーツ・フォー・オールには、エリートスポーツや国際的に広く知られたスポーツだけでなく、プレイ（楽しむことを目的とした身体活動の総称）、ダンス、ニュースポーツ、レクリエーション活動、スポーツツーリズム、伝統スポーツや遊び（Traditional Sports and Games :TSG）など、あらゆる形態の身体活動が含まれる。スポーツ・フォー・オールの推進、特に様々な世代が交流し合うことが奨励されているTSGを推進することで、グローバリゼーションとのバランスを取ることができ、文化の多様性を保護することができる。TSGは、「自分とは異なるもの」への理解とその価値を認めることを促す。またメジャーなスポーツに関心をもつことができない人たちにも、身体活動を通してコミュニティの一員となるよう勧めるツールとして活用することができる。

#### － 我々のミッション2030

変化を起こすために、グローバルなスポーツ・フォー・オールと身体活動の推進運動（SAPA Movement）は以下のことを行う必要がある。

- 伝統スポーツや遊び（TSG）とニュースポーツの双方を、以下にあげるような今日我々が抱える数多くの課題に取り組むための素晴らしいツールとして認識し、積極的に推進する。
  - ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）の醸成
  - スポーツや身体活動への参加促進
  - コミュニティ全体の健康と結束の向上
  - 文化交流と理解の促進
- 伝統スポーツや遊び（TSG）の事例を収集・記録して広めるために時間やその他のリソースをつぎ込む。
- オリンピックなど、既存の総合的競技大会や多文化イベントを活用し、文化遺産における多様性を広く示す。

<sup>10</sup> 出典：Wurm, Stephen A. Atlas of the World's Languages in Danger of Disappearing. UNESCO, 2001

# 9. ガバナンス、リーダーシップ、インテグリティ

## ビジョンステートメント

2030年、世界中にグッドガバナンスの好事例が広く示されている。

### － 現状

残念なことに、不祥事、詐欺、独裁、汚職などは、ありとあらゆる形のリーダーシップとガバナンスにおいてありがちな問題となっている。「エデルマン・トラストバロメーター調査」(大手PR・マーケティングコンサルティングサービス会社のエデルマンが世界中で実施している信頼度調査)によると、人は企業、政府、NGO、メディアに対して反発的な姿勢を示す傾向があるという結果が出ている<sup>11</sup>。市民による暴動が起きているような地域では、人々は自分の命をかけて投票するか、シンプルにその機会を放棄するかを選択を迫られている。報道機関は、政治的・財政的なしがらみに影響された見解や「フェイクニュース」を掲載している。また、正当な手段によらずに不正をする様々な機会が、容易にしかもひどく魅力的に見えるように提示されている。勝ちたいという願望は、フェアに競いたいという願望よりも強くなり、スピードへの要求は、正確さや注意深さへの要求より大きくなっている。人のためになることをするよりも、自分を守ることや自分を宣伝することが優先されているのである。

### － スポーツ・フォー・オールにできること

本来、スポーツ・フォー・オールは、多くの他者を犠牲にして自己の利益を追求するという考え方に抗うものである。スポーツ・フォー・オールは、スポーツや身体活動に、誰でも公平かつ平等に参加できるようになるための枠組み・ガイドライン・機会をつくることを通じて、世界中に良い手本を示すことができる。グローバルなレベルでは、TAFISAの「倫理規定 (Code of Ethics)」や、スポーツ分野のインテグリティに関する国際的な連帯組織である「スポーツインテグリティグローバルアライアンス (Sport Integrity Global Alliance)」による、スポーツインテグリティに関する基本原則宣言 (Declaration of Core Principles on Sport Integrity) が、あらゆるスポーツ団体にとって活用・採択できるリーダーシップの手本を示している。自治体や個人のレベルでは、スポーツ・フォー・オールや草の根スポーツに参加することで、フェアプレー、平等な機会、他者への受容と理解、リーダーシップと自制心といった価値観を醸成することができ、これらの価値観はコミュニティ全体に広がり、民主的な制度やガバナンスの発展につながる。

### － 我々のミッション2030

変化を起こすために、グローバルなスポーツ・フォー・オールと身体活動の推進運動 (SAPA Movement) は以下のことを行う必要がある。

- グッドガバナンスやインテグリティに関する基本理念をとりまとめ、広く社会に明示する。
- フェアプレーの価値、参加することの価値、肯定的な意味でのリーダーシップの価値を浸透させる。

<sup>11</sup> 出典 : <https://www.edelman.com/trust2017/>



# 10. コミュニティとボランティア活動

## ビジョンステートメント

2030年、ボランティアの価値が高く評価され、コミュニティはインクルーシブで安全な場所として、尊重されている。

### － 現状

世界各地で、コミュニティ意識が希薄となっている。保護者は子供たちを外で遊ばせることに懸念を抱き、住民は隣近所とつきあわずに孤立し、高齢者は老人ホームで孤独に過ごしている。「コミュニティ」という言葉の意味は、人によって異なる。自分が生活する近隣をあらわすと考え、同じようなものの見方・信念・政治的な意見をもつ人の集まりであると考え、同じところで働き・学び・遊ぶ人たちのことであると考え、その人にとって「コミュニティ」が何をあらわすにせよ、すべてに共通しているのは、コミュニティにおいては何らかの関係性が確立されており、充実した人生を送るためには欠かせないものであるということである。ボランティア活動は、どのような形であっても、コミュニティ感覚の醸成に大きく貢献し、我々を人間らしくさせる社会構造をつくり上げている。孤独な人、孤立した人、目的意識のない人は、心理的な問題を抱えたり、社会の負担になってしまったりする可能性があるが、ボランティア活動はこのような人たちをコミュニティに引き込むことができる。しかし、ボランティア活動のこのような側面は十分に理解・認識されておらず、正しく評価されていない場合がある。

### － スポーツ・フォー・オールにできること

スポーツ・フォー・オールは、ボランティア活動に理想的なプラットフォームを提供し、地域レベルのコミュニティと国際的なコミュニティを結びつけることができる。実際に、スポーツ・フォー・オールは多くのボランティアによって支えられている。スポーツ施設、クラブ、チーム、スポーツ関連の集まりは、リーダーシップ、コーチング、運営、維持管理に至るまで、ボランティア活動に大きな恩恵を受けている。同時に、そのような場やイベントが、ボランティアやコミュニティメンバーに、社会的交流や人間関係の構築、スキル開発の機会、目的意識や自尊心を育てる機会を提供している。またボランティアの一員になることや、インクルーシブで自分を歓迎してくれるコミュニティの一員になることで、幸福感や満足感を得ることもできる。スポーツ・フォー・オールへの参加は、意識の面でも実際上も、コミュニティの安全性を向上させる。人々が通りで一緒にプレイ（楽しみを目的とした身体活動）しているようなコミュニティでは、より安全に「見える・感じる」だけでなく、実際に犯罪件数が少なく、住民はより健康になっていることが証明されている。

### － 我々のミッション2030

変化を起こすために、グローバルなスポーツ・フォー・オールと身体活動の推進運動（SAPA Movement）は以下のことを行う必要がある。

- スポーツ関連のイベント、グループ、クラブにおいて、ボランティアの参画促進について考え、彼らの貢献を正しく評価する。
- ボランティアを適切にトレーニングし、ボランティア自身と彼らが支える人たち双方のメリットを増やす。
- ボランティア活動を奨励し、ボランティアの知識と経験を共有して、ほかの人たちを仲間を迎え入れる。

# 11. 健康とウェルビーイング

## ビジョンステートメント

2030年、すべての人々は、健康的なライフスタイルを送るために必要な栄養を摂り、必要な身体活動を行っている。

### － 現状

グローバルな競争が進む一方、我々は以前と比較して飢餓の問題については改善させてきた。70年ほど前は、世界人口の半数近くが栄養失調であったが、現在この数字は12%程度まで減っている。その一方で、同じ時期に世界の肥満人口は2倍以上に増えている<sup>12</sup>。この要因には食事内容の問題と身体不活動があげられる。身体不活動は、世界中で年間約530万人も発生している早期死亡者にも関係している。この数字は結核、肺がん、HIV/エイズ、交通事故による死者数よりも多い。しかし、身体不活動が人的資本、生活の質、経済破綻にもたらしている金銭的コストについては何も触れられていない。身体不活動が直接の原因となっている金銭的コストは、米国だけでも2030年に1,917億ドルに達すると試算されている<sup>13</sup>。これでは持続可能とはいえない。

### － スポーツ・フォー・オールにできること

個人にとって身体活動は以下のような効果があることが証明されている。

- 肥満になる可能性が90%減少
- 学校の成績が40%向上
- 薬物や性行為に関係する危険行動（喫煙や早すぎる妊娠など）が減少
- 大学の出席率が15%向上
- 生涯賃金が7%から8%増加
- 医療費を年間2,500ドル以上節約
- 心疾患、脳卒中、がん、糖尿病などにかかるリスクを低減
- 多くのケースでうつ病に対して薬物治療と同程度の効果を発揮
- ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）や他者とのつながりをもたらすツールとして活用可能
- 次の世代に対しても自分たちと同じようにアクティブになるよう奨励が可能<sup>14</sup>

### － 我々のミッション2030

変化を起こすために、グローバルなスポーツ・フォー・オールと身体活動の推進運動（SAPA Movement）は以下のことを行う必要がある。

- 治療や予防のために「必要な身体活動」を処方してもらうことを医療の専門家に求める。
- きちんと栄養を摂ることだけでなく、運動の重要性についても啓発する。
- 身体を動かすことでもたらされる「身体の健康」以外のプラスの影響について啓発する。

<sup>12</sup> 出典：WHO

<sup>13</sup> 出典：Designed To Move - A Physical Activity Action Agenda (www.designedtomove.org)

<sup>14</sup> 出典：同上

# 12. 経済的影響とリソース

## ビジョンステートメント

2030年、社会への貢献が適切に評価され、スポーツ・フォー・オールに、貢献に応じた十分な資金と認知が与えられている。

### － 現状

裕福な人がより豊かになり、科学はさらに進歩し、移動・輸送手段は速度を増している。世界はさらに発展し、かつてないほどに便利になっている。しかし一方で、金銭的資源、またはその他の資源は世界中で非常に不公平な形で分散されている。世界の富裕層最上位1%が所有する財産の割合は、2016年には世界全体の50%を超えるとオックスファム（世界90カ国以上で貧困を生み出す状況を変えるために活動している国際協力団体）は予想した。スポーツの世界では、こうした矛盾が信じられないほどはっきりとあらわれている。欧州の上位10名のサッカー選手は少なくとも年間1,400万米ドル以上を稼いでいるのに対し、スポーツを通じて少年犯罪の問題に取り組む英国のプログラムは、7万人以上の青少年に届いているにもかかわらず、一人当たり70米ドルしか受け取っていない。つまり、有名なサッカー選手が受け取る額の0.0005%ということになる。全体的に、そして特にエリートスポーツとスポーツ・フォー・オールの間において、世界の人々により良い形で役立てるように、富と天然・人工資源の分配について再検討する必要がある。

### － スポーツ・フォー・オールにできること

スポーツ・フォー・オールと身体活動（SAPA）、草の根スポーツは、経済にも大きく貢献している。例えば、2030年までに477%も増えると見込まれているインドにおける医療費の削減への貢献は顕著な例である。しかし、その貢献は実はそれ以上に大きく幅広い。個人については、積極的に身体を動かし、活動的であることで生涯賃金を7%から8%増やせる可能性がある。地域の繁栄という観点では、徒歩移動の推進によって訪問者や雇用が最大300%増加することが示されている。また歩道整備への投資は、健康促進や大気環境の改善というリターンを生み、リターンの価値は建設コストの2倍近くにのぼる<sup>15</sup>。民間部門における便益も非常に大きい。消費者はスポーツ用品の購入やスポーツクラブの会員になることで健康というリターンを生む。国内・地域内・海外の旅行を扱う事業者は、スポーツ参加者やスポーツツーリズムから収益を得られる。企業は、職場でのスポーツ・身体活動プログラムを通じて、従業員の満足度、帰属意識、生産性を高められる。これらすべてが与える経済効果の大きさは計り知れないが、それにもかかわらず、スポーツ・フォー・オールの推進運動は常に深刻な資金不足に直面している。

### － 我々のミッション2030

変化を起こすために、グローバルなスポーツ・フォー・オールと身体活動の推進運動（SAPA Movement）は以下のことを行う必要がある。

- エリートスポーツだけでなく、草の根スポーツやスポーツ・フォー・オールに対しても多額の投資をすることを政府機関に強く求める。
- スポーツ・フォー・オールによる経済的な貢献について民間やエリートスポーツ業界の理解を促進し、スポーツ・フォー・オール推進運動の保全と成長を支援するための協力関係を築く。

<sup>15</sup> 出典：Designed To Move - A Physical Activity Action Agenda ([www.designedtomove.org](http://www.designedtomove.org))

---

## 変化を起こすために

スポーツ・フォー・オールと身体活動の推進運動（SAPA Movement）は、より良い世界を追求するために、12のテーマに沿って行動・貢献する準備ができています。それぞれの国が、成功に向けて、独自の目標・視点・リソースを生み出すことを我々は理解しています。

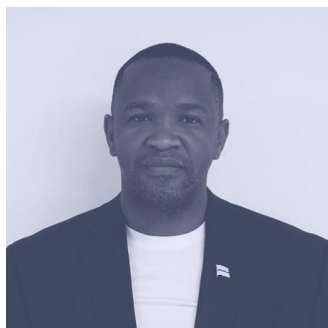
一方、我々の可能性を最大限に生かして効果的な変化を起こすためには、他分野の変革者がスポーツ・フォー・オールのポジティブな効果を理解して積極的に支援してくれることが重要である。最後にその点も踏まえ、本ミッションに基づくスポーツ・フォー・オールの推進運動の実施とともに、以下のことを切に願う。

- エリートスポーツの推進運動（The elite sports movement）が、草の根スポーツや生涯スポーツへの参加促進を、資金提供や支持の表明を通じて支援すること
- 各国政府が政策や法整備において、スポーツ・フォー・オール推進を明確に規定すること
- 医療関係者が薬物療法だけでなく運動することを処方することで、身体活動を奨励すること
- 地方自治体がアクティブな生活に関する取り組みを支援・実施すること
- 教育者が質の高い体育の授業を実践し、アクティブな学びの機会を促進すること
- 保護者が学問だけでなく身体活動の重要性を理解すること
- エリートスポーツだけでなく草の根スポーツやコミュニティベースのプログラムに、民間企業がスポンサーすること
- スポーツ・フォー・オールの取り組みやその社会的意義をメディアが伝えること
- ボランティアやコミュニティの貢献が公に広く認められて評価されること
- 国際機関が、スポーツ・フォー・オールに関する知識や経験を共有する機会を提供すること

「ミッション2030」の成功に向けて進捗を図るために、定期的なフォローアップ・分析・見直しを行う。

**今こそ、我々全員が気付き、責任をもって行動し、スポーツ・フォー・オールを通じて次世代のためにより良い世界をつくることを覚悟するときだ。**

# 証言

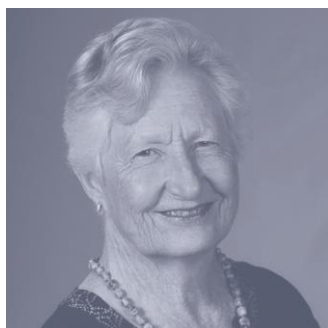


テーマ：平和、開発、パートナーシップ

## Solly Solomon Reikeletseng

ボツワナ／ナショナルスポーツカウンシル／会長（Chairperson, National Sports Council, Botswana）

「誰もがスポーツに参加することは、継続的な平和実現と社会発展のために欠かせない。ボツワナでは、国づくりのため、そして国に誇りをもたらすためにスポーツが果たす役割を高く評価している。スポーツへの参加は、寛容と社会的な統合を促進する。スポーツは基本的な価値観やライフスキルを教えることで社会の発展を支え、人々を結び付け、社会的結束を高め、薬物乱用などの犯罪を含む社会問題の解決につながる。また、スポーツボランティア活動を推進することで、ボランティア活動に従事した人たちが新たなスキルを学び、自分に自信をもてるようになる。スポーツには、人々を一つにする力があるので、コミュニティ全体に協力することの大切さをメッセージとして伝えることができる。ボツワナでは、(社会的に)インクルーシブであることを重要な価値基準としており、若者、少女、障がいのある人を含め、あらゆるボツワナ人がスポーツをする機会を平等に得ることができるように努力している。」



テーマ：ジェンダーの平等

## Carole A. Oglesby

米国／国際女性スポーツワーキンググループ／共同議長／博士（PhD, Co-Chair International Working Group on Women in Sport, USA）

「スポーツ・身体活動・体育において、『参加機会』『リーダー職への就任』『様々なリソース』に女性も平等にアクセスできることは、輝かしい2030年に向けて、個々の女性たちにとってだけでなく、その家族や女性が中核となって活躍しているコミュニティにとっても極めて重要だ。」



テーマ：教育

## Malcolm Freake

オーストラリア／ブルーアース財団／創立者・理事／オーストラリア勲章（メダル）（OAM, Founder and Director, Bluearth Foundation, Australia）

「子供の頃に身体を動かすことで良い経験をする、生涯を通じて身体を動かすことが大好きになることを我々は知っている。また身体を動かすことは幸福で健康な将来のリーダーを育てることもつながる。我々の未来や子供たちの将来を形づくる上で、教育は非常に重要な役割を果たすが、身体を動かすこと自体が同様に重要である。ブルーアース財団は、運動や身体活動が我々のウェルビーイングに極めて重要であるという信条に基づいて設立された。アクティブな生活は身体的な健康以外にも非常に多くの恩恵をもたらしてくれる。人々の座りがちな生活習慣を改善するまでの道のりはまだ長い、過去16年間行ってきたブルーアースの学校における取り組みを通して、我々はオーストラリアの子供たちとその家族の生活に変化をもたらし、将来世代のためにアクティブな国家をつくってこられたと強く自負している。」



テーマ：ソーシャルインクルージョン

**Marion Keim Lees**

南アフリカ／スポーツ・開発・平和財団／会長（Chairperson, Foundation for Sport, Development and Peace, South Africa）

「社会における身体活動の増加とスポーツ・レクリエーションへの若者の参加は、我々のコミュニティにおけるソーシャルインクルージョンや社会経済発展の土台となる。発展途上国におけるソーシャルインクルージョンは、様々な文化的背景・出身・宗教・障がい・社会階級・年齢の人たちを統合することや、ジェンダー関係の向上に焦点をあてるべきである。ソーシャルインクルージョンは、市民社会、政府、学界、産業界における関係改善、信頼構築、共同でのアクションなど、人的資本の開発を必要とし、またそれを推進する。当財団は、毎年開催している「ケープタウン・スポーツと平和に関する国際会議」に加えて、国際的なラウンドテーブルや研修など、参加者の様々な活動に基づく意見交換の機会を提供している。そうした機会を通じて、平和で健康的なコミュニティや社会をつくるための普遍的価値、オリンピックの価値に重点をおいた教育およびスポーツとレクリエーションの価値普及に力を注いでいる。」



テーマ：ソーシャルインクルージョン

**Leonard Thadeo**

タンザニア／国家スポーツ評議会／スポーツ開発担当理事（Director of Sports Development, National Sports Council of Tanzania, Tanzania）

「スポーツ・フォー・オールは、すべての人々に社会参画の機会を提供し、平等性と多様性を推進する。スポーツ・フォー・オールは垣根のあるところに架け橋をかけてそれを取り除くことを低コストで実現し、大きな成果をあげられる社会的ツールである。」



テーマ：プレイとフィジカルリテラシー

**Catherine Forde**

トリニダード・トバゴ／国内オリンピック委員会カリブ海連合（CANOC）／副会長（Vice President, Caribbean Association of National Olympic Committees (CANOC), Trinidad & Tobago）

「プレイは、特に子供たちにとっては、成長に欠くことのできないものである。プレイは、楽しさ、幸せ、自由、そして学びを表現する機会を提供してくれる。」



テーマ：アクティブシティ

**Joe Anderson**

英国／リバプール市／市長（Mayor, City of Liverpool, United Kingdom）

「身体活動やスポーツがリバプール市民の生活改善にポジティブな貢献を果たせることは明らかだ。それらは日常生活の重要な構成要素であり、人々が健康で自立した生活を送れるようにしてくれる。また、雇用機会を創出し、コミュニティの結束を推進することで、コミュニティ全体に恩恵を与えられる。健康やウェルビーイングのために、様々な要素を包含した『ユニバーサル・オファー（普遍的な支援）』を開発することは、当市の健康格差対策に向けた優先事項の一つである。」



### Yasuo Yamaguchi

日本／神戸大学／教授／TAFISA-JAPAN／理事／博士（PhD, Dr, TAFISA Japan/Kobe University, Japan）

「環境問題は、スポーツと身体活動にも影響を与える普遍的な懸念事項である。自然環境の破壊によって気候変動が起こり、屋外フィールドが減少することによって、我々の日々のスポーツライフにもマイナスの影響が生じる。日本では、個人による自然資源の保護が非常に重要であるとの認識のもと、数多くの継続的な取り組みが社会全体で行われてきた。競技場で観客が試合後に掃除をする行為は、現在では文化として根付き、ゴミ拾いは全国で「ニュースポーツ」の一つとして楽しまれている。こうした活動は健康的な環境の重要性に対する意識を向上させ、次世代のためのスポーツを通じた持続可能な社会構築への支えとなっている。」



### Yoon JaeHwan

韓国／韓国スポーツ・フォー・オール協会（SAKA）／会長（President, Sport for All Korean Association (SAKA), Korea）

「文化遺産は、帰属意識を生み、人々のアイデンティティの中核となる。社会の中では、コミュニティにおけるソーシャルインクルージョンの重要な構成要素である。グローバルな観点では、民族の伝統や遺産は文化的な財産として見られており、異なる文化の人々がほかの文化を理解し、コミュニケーションを促進して、より平和な世界を実現するために役立つと考えられている。だからこそ、自分たちの文化遺産を保護し、世界全体の文化的多様性を保持することが重要なのである。韓国では、無形の文化遺産として、またコミュニティ意識を向上させて国民を一つにするための手段としての伝統スポーツや遊びを推進する事業を、政府の支援によって立ち上げた。」



### Peter Barendse

オランダ／KCスポーツ（KenniCentrum Sport, Netherlands）

「スポーツ・フォー・オールにおけるリーダーシップは、我々のスポーツの中から、そして個々の人々の中から始まる。スポーツ・フォー・オールをスポーツおよび他分野におけるグッドガバナンスの好事例とするためには、組織としての強さ、透明性、自分たちの役割とその可能性を認識することが鍵となる。スポーツ・フォー・オールに見られる、驚くべき国際的な広がり、包括性、文化的な幅広さは、ほかのスポーツ分野にはない様々な機会をそれ自体に与えている。

スポーツ・フォー・オールは「シェアード・リーダーシップ（shared leadership）」の価値を推進し、教育や健康など、ほかの分野とも協力することで、インテグリティやグッドガバナンスの身近な手本となりえる。」



## テーマ：コミュニティとボランティア活動

### Walter Schneeloch

ドイツ/ドイツオリンピックスポーツ連盟 (DOSB) / 副会長 / スポーツ・フォー・オールとスポーツ開発 (German Olympic Sports Confederation Vice President (DOSB), Sports for All and Sports Development, Germany)

「(スポーツ) ボランティア活動は、アクティブな市民と市民社会の中核にある。このことは、多くのボランティアが運営を支えるスポーツクラブが90,000以上ある我が国のスポーツ界には特に当てはまる。それは、人々の社会的なつながりを生み出すと同時に、スキルやノウハウの開発を促す機会を提供する。特に子供や若者にとってスポーツは安定した社会生活を送る手段の一つになる。こうした正規の教育以外の学習プロセスを通じて、スポーツは、公正、寛容、チームスピリットといった重要な規範・価値観を伝えるメッセンジャーとして機能し、これらの価値観は、クラブの外の生活や社会においても応用できる。DOSBとその会員組織は、引き続き、ボランティアに対する認識を高め、ボランティア文化に貢献するとともに、参加ボランティアにとってより良い環境を実現するための活動に注力していく。」



## テーマ：健康とウェルビーイング

### Maria Luiza Souza Dias

ブラジル/サンパウロ商業連盟社会サービス (SESC) / 身体活動とスポーツの発展担当マネージャー (Manager of Physical and Sportive Development of Social Service of Commerce São Paulo (SESC), Brazil)

「人間関係や生活の質、ウェルビーイングの向上を願う人にとって、身体的にアクティブであり続けることが自分自身の成長とバランスを保つ方法の一つになりうる。アクティブな子供はアクティブな大人になるという分析からすると、人生の早い段階で始めるスポーツプログラムや身体活動は、その後のアクティブな人生の促進に繋がる。スポーツや身体活動は、健康、教育、ソーシャルインクルージョンに大きく貢献する。国連の「2030アジェンダ」において、スポーツが平和と開発を促進する推進役として認識されていることを我々は熟考すべきである。また、身体活動やスポーツ活動の実践は『市民の権利』であって義務ではないことも伝えたい。」



## テーマ：経済的影響とリソース

### Herzel Hagay

イスラエル/イスラエル スポーツ・フォー・オール協会 / 事務局長 (Secretary General, Israel Sport for All Association, Israel)

「スポーツ・フォー・オールはすべての政府にとって優先すべき投資対象である。我が国では、スポーツ・フォー・オールはもっとも効果的な節約策の一つとされる。ある統計によると、スポーツ・フォー・オールは草の根スポーツ愛好者にとっての最大の活動の場として、毎年約5,000万新シケル(イスラエルの貨幣単位: 約15億円)の医療費節減に寄与している。これはスポーツ・フォー・オール政策への投資1新シケルごとに、医療支出3新シケルを削減できるという計算となる。

我が国では、人口の約半分が日常的に身体活動を行っているが、これは国の経済に膨大な効果をもたらしている。定期的なスポーツ活動は用品やウェアを必要とするし、一緒にスポーツをした後は仲間と飲食を共にする。さらにウォーキングイベントに参加する数千人の旅行者がイスラエルに来るので観光業界全体を潤し、施設への入場料収入は公共のスポーツ施設の維持に役立てられている。このように、経済に多大な利益をもたらすスポーツ・フォー・オールはもっと評価されるべきである。」



## TAFISA理事会メンバー（2017 – 2021年）

---

<b>会長</b>	Prof. Dr. Ju-Ho Chang（韓国）
<b>副会長</b>	Mr. Peter Barendse（オランダ） Mrs. Catherine Forde（トリニダード・トバゴ） Mr. Guoyong Liu（中国） Mr. Leonard Thadeo（タンザニア）
<b>会計</b>	Mr. Herzel Hagay（イスラエル）
<b>事務局長</b>	Mr. Wolfgang Baumann（ドイツ）
<b>理事</b>	Dr. Mitra Rouhi Dehkordi（イラン） Mr. Dionysios Karakasis（ギリシャ） Mr. Solly Solomon Reikeletseng（ボツワナ） Mr. Janez Sodrznik（スロベニア） Prof. Dr. Yasuo Yamaguchi（日本）

## 連絡先

---

TAFISA オフィス  
c/o Commerzbank / Filiale Höchst  
Hostatostraße 2  
D-65929 Frankfurt am Main  
Germany  
Eメール: [info@tafisa.org](mailto:info@tafisa.org)  
電話 : +49 69 973 935 990 0  
Fax : +49 69 973 935 992 5  
ウェブサイト : [www.tafisa.org](http://www.tafisa.org)

「ミッション2030 - スポーツ・フォー・オールを通じてより良い世界を築く」に関する最新情報については、TAFISAウェブサイトをご覧ください。

---

**編集者** : The Association For International Sport for All e.V. (TAFISA)  
**編集長** : Wolfgang Baumann  
**編集補佐** : Bae Schilling, Gaëtan Garcia, Jean-Francois Laurent, Ingrid Martel  
**レイアウト・制作** : Rightcolours  
**配布** : 英語印刷版3,000部（初版） [www.tafisa.org](http://www.tafisa.org)からもダウンロード可能

より良い世界を築くために  
グローバルなスポーツ・フォー・オール運動に参加しよう

**私（たち）は、「ミッション2030」の目的達成に貢献することをここに誓います。**

日付・場所：

---

氏名・所属組織：

---

---

署名：

---

社印：

---

**Fax・Eメール・郵便のいずれかの方法で本ページを以下の宛先まで送付してください。**

TAFISA, c/o Commerzbank / Filiale Höchst, Hostatostrasse 2, 65929

Frankfurt Höchst, Germany

Eメール: [info@tafisa.org](mailto:info@tafisa.org)

電話: +49 69 973 935 99 00

Fax: +49 69 973 935 99 25

ウェブサイト: [www.tafisa.org](http://www.tafisa.org)



### **TAFISAミッション2030**

スポーツ・フォー・オールを通じてより良い世界を築く

---

TAFISA オフィス

c/o Commerzbank / Filiale Höchst | Hostatostraße 2 | D-65929 Frankfurt am Main | Germany  
Eメール: [info@tafisa.org](mailto:info@tafisa.org) | 電話: +49 69 973 935 990 0 | Fax: +49 69 973 935 992 5 | ウェブサイト: [www.tafisa.org](http://www.tafisa.org)

# 用語集

※五十音順

用語	定義及び解説
アクティブシティ (Active Cities)	すべての市民が身体的に活動的で幸福でいられるよう社会／自然環境、インフラ、法制度などを整備しているまち
インテグリティ (Integrity)	誠実、真摯、高潔などの概念を意味する言葉 スポーツにおいては、暴力や虐待、ドーピング、八百長等の不正行為を排除し、安全性や公平性を保つこと
ウェルビーイング (Well-Being)	身体的・精神的・社会的にすべてが満たされた状態
エリートスポーツ (Elite sports)	高い競技レベルを有するアスリートによって、タイムや勝敗、順位を競うスポーツ
グッドガバナンス (Good governance)	組織の健全な統治を意味し、組織の内外に向けて透明性が高く民主的な運営がなされている状態
持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals :SDGs)	2015年の国連サミットで採択された「誰一人取り残さない持続可能な社会」の実現を目指す世界共通の目標 (達成年限：2030年)
スポーツ・フォー・オール (Sport for All)	すべての個人が、生涯にわたってスポーツを楽しむことができる環境づくりや政策を進めるという社会的ムーブメント
スポーツ・フォー・オールと身体活動 (Sport for All and physical activity :SAPA)	すべての個人が生涯にわたって楽しむことができるスポーツや身体活動（運動、生活活動）ができる環境づくりや政策を進めるという社会的ムーブメント
ソーシャルインクルージョン (Social Inclusion)	社会的包摂（受容）と訳される、人種・年齢・性別・出身地・社会経済状況等にかかわらず誰もが平等に社会参加できるようにしていく考え方やプロセス
伝統的なスポーツや遊び (Traditional Sports and Games :TSG)	民族古来の伝統的な生活文化から発祥したスポーツや遊戯
フィジカルリテラシー (Physical Literacy)	スポーツや身体活動を通して、生涯にわたって習得すべき身体能力や（健康効果などに関する）知識、行動（生活習慣）等の総称
プレイ (Play)	楽しむことを目的とした身体活動の総称

<参考文献>

1. IOC(2002) Declaration: 9<sup>th</sup> World Sport for All Congress.
2. Jurgen P (1991): Sport for All: Approaches from Utopia to Reality. ICCPE Sport Science Studies 5, Karl Horfman GmbH.
3. 山口泰雄(2014): 21世紀におけるスポーツ・フォー・オール国際動向を探る：国際団体の動向と国際会議に着目して. 生涯スポーツ研究 11(1):1-12.
4. 山口泰雄(2002)：「世界の生涯スポーツの潮流」池田勝編著 “生涯スポーツの社会経済学”  
P20-p30, 杏林書院.